



2017年4月26日

安曇野市議会議長 浜 昭次 様

会派名 日本共産党安曇野市議団

代表者氏名 松澤 好哲

経理責任者氏名 猪狩久美子



2016年度政務活動費収支報告書

安曇野市議会政務活動費の交付に関する条例第9条の規定により、2016年度政務活動費収支報告書を提出します。

1 収支決算

収入の部

(単位：円)

項目	決算額	備考
政務活動費	270000	@90000×3
合計	270000	

支出の部

項目	決算額	備考
研修費	196920	<p>他団体開催の研修会に参加 研修費158000円+交通費 77840円+宿泊費55606 円のうち研修費158000円と 交通費77840円のうち1/2 の38920円の合計19692 0円を充当。</p> <p>なお、5月10日の「議員の学 校」交流会参加費4500円、 11月8日昼食弁当代1400円 ×2人、2月7日昼食弁当代14 00円は自己負担としました。</p>

広報費	73080	会派ニュース印刷費：会派広報紙の発行117720円のうち73080円（約6割）を充当。
合 計	270000	

2 収入支出差引残高 0円

別紙

政務活動実施状況

活動名	「第25回議員の学校」への参加と研修	
動区分	① 調査研究 ② 研修 ③ 資料作成 ④ 資料購入 ⑤ 広報広聴 ⑥ 要請・陳情 ⑦ その他	
活動の目的	「日本国憲法の立憲主義と平和主義」や「地方自治の直面する課題」、「持続可能な価値社会を自然資源から見ること」などを学び、安曇野市の課題を深める。	
活動の概要	日時	平成28年 5月10日(火) 13時から 平成28年 5月11日(水) 16時半まで
	研修先・主催者等	東京都立川市 たましんRISURUホール 主催：NPO法人多摩住民自治研究所
	報告内容・実施したこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法学の第一人者、杉原泰雄（一橋大学名誉教授）先生から「立憲主義と平和主義、人権保障と民主主義」の講義。 ・シンポジウムでは、沖縄の基地と地域経済に詳しい川瀬光義先生（京都府立大教授）、「JOC」が臨界事故を起こした当時の東海村元村長の村上達也先生、「安倍政権が進める積極的平和市議の解明」を神子島健先生（成城大学講師）から報告をいただき、池上洋通先生のコーディネーターで討論、質疑で問題を深める。 ・「地域社会の持続可能な発展を、自然資源から考える」寺西俊一先生（一橋大学名誉教授）の講義。 ・人口ビジョンと総合戦略の交流。各自治体の取り組みの報告。 ・池上洋通先生（「議員の学校」学校長：自治体問題研究所理事）から「18歳選挙権が地方自治体に問うもの」と題する講義。 ・講義やシンポジウムなどの質疑。
まとめ（感想・市政に活かせること等）	<ul style="list-style-type: none"> ・法律は憲法に沿って制定され、憲法の基本理念に基づいた政治が行はなければならない。地方自治体も例外ではない。「基地」「原発」「平和」問題について、議員や自治体のかかわり方も。 ・人口ビジョンや総合戦略の策定が都道府県を超えて各自治体に競争のようであてがわれ、金太郎あめになっている。地域住民の参加で議論を積み上げたものとなっていない。議会の参加も乏しかった。見直しや独自性を考えていく必要がある。 ・地域の自然資源を生かし、持続可能な自治体の発展を展望した「地方創生」を考える。また、災害に備えた都市と農山村のつながり（例えば「疎開保険」）の取り組みをしていく。 ・18歳選挙権の意義をとらえ、地方自治にいかにかかしていか。行政や議会も、学校教育（義務教育や高校教育）と力を合わせて子どもたちを主権者としての成長させる義務と仕事がある。 	

備考 政務活動等実施状況は活動ごとに作成し、領収書その他支出を証する書類を最後にまとめて添付すること。

政務活動実施状況

活動名	・他団体開催の研修会に参加	
活動区分	①調査研究 ②研修 ③資料作成 ④資料購入 ⑤広報広聴 ⑥要請・陳情 ⑦その他	
活動の目的	・研修内容を市政に反映させるため	
活動の概要	日時	2016年11月7(月), 8日(火)
	研修先・主催者等	会場:大阪市ホテルマイステイズ新大阪コンファレンスセンター 主催:(株)自治体研究所
	報告内容・実施したこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・選科 A 「地域経済と中小企業進行基本条例」岡田知弘氏の講義を選択。地域の成り立ちに始まり、地域を「活性化」するとはどういうことか、地域産業・経済の再生と地方自治体の役割などを学んだ。 ・2日目の記念講演「高齢者介護・福祉政策をめぐる争点と自治体の役割」河合克義氏の講演を聞いた。高齢者施策という介護問題に目がいきがちだが、高齢者の実態を調査した貧困や孤立状態などの内容を話された。 ・記念講演「新たな介護保障と地域づくり～新・総合事業に取り組む自治体の事例から～」長友薫輝氏の講演を聞いた。新総合事業の先進自治体の例を紹介しながら、今後は、自治体間の競争になり、地域差が出てくるという話をされた。
	まとめ(感想・市政に活かせること等)	<ul style="list-style-type: none"> ・国の政策が市政に大きく影響している事が、研修全般からわかりました。 なお、詳細は研修報告に記載しました。

備考 政務活動等実施状況は活動ごとに作成し、領収書その他支出を証する書類を最後にまとめて添付すること。

別紙

政務活動実施状況

活動名	「第38回市町村議会議員研修 in 大阪」への参加と研修	
動区分	① 調査研究 ②研修 ③資料作成 ④資料購入 ⑤広報広聴 ⑥要請・陳情 ⑦その他	
活動の目的	「地域経済振興」「子ども・若年者の貧困」「高齢者介護・福祉」などについて学び、自治体としての安曇野市の役割を考える。	
活動の概要	日時	平成28年 11月7日(月) 13時から 平成28年 11月8日(火) 15時半まで
	研修先・主催者等	大阪府大阪市ホテルマイステイズ新大阪コンファレンスセンター 主催：(株)自治体研究社
	報告内容・実施したこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・1日目は、二つの選科より、B浅井春夫立教大教授の「子ども・若者の貧困と自治体政策づくりの課題」の講義を選んだ。子どもや若者の貧困の実態を様々なデータから明らかにされた。戦争と対極にある福祉の観点から子どもの貧困をとらえる視点を提起され、特に若者の貧困は経済的徴兵制につながると危惧された。 ・2日目の午前は、NHKの高齢者福祉の番組を共に作られ、日本の社会に衝撃と話題を提供されてきた河合克義明治学院大教授の「高齢者介護・福祉政策をめぐる争点と自治体の役割～高齢者の貧困と孤立の実態から考える～」講義。高齢者福祉はただ介護問題だけにあるのではない。高齢者が抱えている全体の問題をとらえることで、自治体の対応策も見えてくると指摘された ・午後は、長友薫輝三重短大教授の「新たな介護保障と地域づくり～新・総合事業に取り組む自治体の事例から～」講義。新総合事業の実施に当たっては、先行自治体の事例に学びながら、地域包括ケアシステム作りに地域住民が積極的にかかわっていくことが大切で、ここに議員の役割もあるのではないかと提起された。
まとめ(感想・市政に活かせること等)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの貧困対策大綱を持ち、いつまでにどのようなことをやって貧困問題を解決するか、目標を持って取り組むべきだとの指摘に、子どもの貧困に立ち向かうのは議員の課題だと感じた。 ・破産老人や孤独死など生々しい現実を、綿密な調査活動と面接記録で明らかにされたので、取り組みに説得力があった。調査活動を通じて高齢者の実態に即した福祉・対応が重要だと感じた。 ・先行自治体の議員の方々にとって講義は復習のようだったが、当市は平成29年4月から向かう新しい分野である。現行サービスがどこまで保障されていくか、要支援のみなさんが戸惑うことはないかなど、じっくり検証していく必要がある。 	

備考 政務活動等実施状況は活動ごとに作成し、領収書その他支出を証する書類を最後にまとめて添付すること。

別紙

政務活動実施状況

活動名	Excel で学ぶ財政分析講座への参加と研修	
活動区分	①調査研究 ②研修 ③資料作成 ④資料購入 ⑤広報広聴 ⑥要請・陳情 ⑦その他	
活動の目的	10年間の安曇野市の財政状況 33項目以上のシートに入力し、それを分析しながら市の財政について研究しその特徴を深める。	
活動の概要	日時	平成29年2月5日(日)から 平成29年2月7日(水)まで(2泊3日) 5日13時から7日15時まで
	研修先・主催者等	会場：富士電機能力開発センター(東京都日野市) 主催：NPO法人多摩住民自治研究所
	報告内容・実施したこと	・平成17年度から平成26年度決算の数字を入力した数字を、様々な指標によって分析し、安曇野市の財政の特徴を考える実技と講義。 ・事前に33項目の入力用シートをいただき、数字の入力は済ませて参加した。グラフ化することで特徴が見やすく、わかりやすくなった。
まとめ(感想・市政に活かせること等)	<p>・市の経年的な特徴は、投資的経費が他の自治体に比べれば抜けて高い傾向が続いていることが一目瞭然であった。他の自治体では、人件費や扶助費が高くて当然という状況だったので、さすがにこれには驚いた。数字だけではわからないこと、経年的にその数字を並べ、他の自治体と比較検討することの重要性を学ぶことができた。</p> <p>・詳細は、添付報告書に記載した。</p>	

備考 政務活動等実施状況は活動ごとに作成し、領収書その他支出を証する書類を最後にまとめて添付すること。

政務活動実施状況

活動名	・他団体開催の研修会に参加	
活動区分	①調査研究 ②研修 ③資料作成 ④資料購入 ⑤広報広聴 ⑥要請・陳情 ⑦その他	
活動の目的	・研修内容を市政に反映できればと思い参加した。	
活動の概要	日時	2017年2月6日～2月7日
	研修先・主催者等	会場：東京都千代田区麹町 弘済会館 主催：(株)自治体研究所
	報告内容・実施したこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・「2017年度予算と自治体財政の焦点」川瀬憲子氏 では、日本の政治経済をめぐる情勢が話され、2017年度予算の特徴や2017年度地方財政計画、「地方創生」関連事業などについて講義を受けた。 ・「『住民自治の根幹』としての議会を作動させる」江藤俊昭氏では、地方政治の重要性の認識、地域経営に責任を持つ議会、議会基本条例の意義・構成・実践などの講義を受けた。 ・「公共施設等総合管理計画の問題点と公共施設のあり方」中山徹氏の講義では、国土と地域の再編、地方創生、公共施設等総合管理計画、公共施設のあり方などが話された。
	まとめ（感想・市政に活かせること等）	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の社会保障政策はOECD諸国の中では貧弱だ。これでは格差の拡大や子供の貧困、少子化などの状況もうなずける。 ・安曇野市議会も議会基本条例ができ、議員間討論、調査研究などそれに沿った形で少しずつ前に進んでいると思う。議決責任、説明責任の重さを受け止め、活動しなければいけないと思った。 ・公共施設整備では、生活圏との関係から誰でもが等しく利用できる条件を整えなければならず、統廃合を簡単に考えてはいけないと感じた。

備考 政務活動等実施状況は活動ごとに作成し、領収書その他支出を証する書類を最後にまとめて添付すること。

政務活動実施状況

活動名	・会派広報紙の発行	
活動区分	①調査研究 ②研修 ③資料作成 ④資料購入 ⑤ <u>広報広聴</u> ⑥要請・陳情 ⑦その他	
活動の目的	・会派の活動を市民に広報するため	
活動の概要	日時	・広報紙発行2016年4月、7月、10月、2017年1月
	研修先・主催者等	・会派広報紙「日本共産党安曇野市議団ニュース」の発行
	報告内容・実施したこと。	・会派広報紙（1500枚×4回）を作成し、新聞折込、手渡し配布などを行いました。 なお、発行した広報紙を添付します。
	まとめ（感想・市政に活かせること等）	・広報紙については、姿勢の状況については分かったが、内容の詳細な説明がほしいなどのご意見をいただいた。

備考 政務活動等実施状況は活動ごとに作成し、領収書その他支出を証する書類を最後にまとめて添付すること。